

みずほマーケット・トピック (2018年8月10日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)
- 今週のドル/円相場は小幅なレンジ内で推移した。週初6日に111円台前半でオープンしたドル/円は、フォックス国際貿易相が「英国のハードブレグジット(強硬離脱)の可能性が高まっている」と発言したことを受けて英ポンドが売られ、また独6月製造業受注指数が約一年ぶりの低水準となりユーロ売りが強まるなど対欧州通貨を中心にドルが買われる展開に週高値となる111.53円をつけた。しかし、米10年国債利回りが約2週間ぶりに2.93%を割り込んだことから111円台前半まで下落。7日は中国上海株をはじめアジア株が総じて堅調に推移する中でドル売りが強まり111円を下回る場面も見られたが、ユーロ/円が急伸するとドル/円は111円台半ばまで連れ高となった。8日は「中国が米国製品160億ドル規模に対し報復関税を8月23日に発動」との報を背景に110円台後半まで値を下げた。9日は一時週安値となる110.71円をつけたが、トランプ米政権によるトルコやロシアへの制裁が嫌気される中で新興国通貨が軒並み下落したほか、対ユーロでのドル買いにサポートされ111円台前半まで反発した。本日のドル/円は111円を割り込み110円台後半を推移している。
 - 今週のユーロ/ドル相場は週後半に急落する展開。週初6日に1.15台半ばでオープンしたユーロ/ドルは、独6月製造業受注が予想を下回ると米国と主要国との貿易摩擦による悪影響がドイツ経済に及んだとの懸念が強まり1.15台前半まで下落した。しかし、この水準では値ごろ感から買い意欲がみられたほか、米金利低下も相俟って1.15台後半まで反発した。7日は中国人民元相場が安定したことや独金利上昇を背景にユーロ/ドルは1.16台まで続伸。8日は週高値となる1.1628をつけたが、イングランド銀行(中央銀行、BOE)のマカファーティー委員による「通商問題において英国がより良好な状況にあると考えることは難しい」との発言が材料視され英ポンドが下落するとユーロ/ドルは1.15台後半まで連れ安となった。その後はドル売り優勢地合いとなったことから1.16台前半まで反発。9日は新興国通貨が軒並み下落する中、リスク回避姿勢の強まりにユーロ/円が下落するとユーロ/ドルも1.15台前半まで下落し、本日は週安値を更新している。

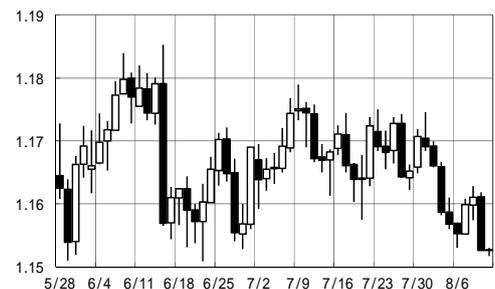
今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		8/3(Fri)	8/6(Mon)	8/7(Tue)	8/8(Wed)	8/9(Thu)
ドル/円	東京9:00	111.71	111.23	111.34	111.35	110.90
	High	111.89	111.53	111.48	111.44	111.17
	Low	111.11	111.16	110.99	110.84	110.71
	NY 17:00	111.29	111.40	111.37	110.96	111.06
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1586	1.1561	1.1557	1.1603	1.1611
	High	1.1610	1.1575	1.1608	1.1628	1.1619
	Low	1.1560	1.1530	1.1552	1.1574	1.1526
	NY 17:00	1.1568	1.1553	1.1599	1.1611	1.1526
ユーロ/円	東京9:00	129.42	128.58	128.67	129.19	128.72
	High	129.51	128.87	129.23	129.45	129.00
	Low	128.65	128.51	128.62	128.57	128.05
	NY 17:00	128.71	128.69	129.20	128.81	128.07
日経平均株価	22,525.18	22,507.32	22,662.74	22,644.31	22,598.39	
TOPIX	1,742.58	1,732.90	1,746.05	1,744.71	1,740.16	
NYダウ工業株30種平均	25,462.58	25,502.18	25,628.91	25,583.75	25,509.23	
NASDAQ	7,812.02	7,859.68	7,883.66	7,888.33	7,891.78	
日本10年債	0.11%	0.11%	0.12%	0.11%	0.12%	
米国10年債	2.95%	2.94%	2.97%	2.96%	2.93%	
原油価格(WTI)	68.49	69.01	69.17	66.94	66.81	
金(NY)	1,213.65	1,207.51	1,210.96	1,213.95	1,212.46	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 来週、米国では15日(水)に7月小売売上高の発表が予定されており、市場では前月比+0.1%と6月(同+0.5%)から減速が予想されている。7月新車販売台数が年率+1668万台と6月(同+1721万台)から大きく減少したことで、自動車販売の低迷が小売売上高の足枷になったと見込まれている模様だ。もっとも、小売売上高と相関が強いと言われているコンファレンスボード集計の7月消費者信頼感期待指数は165.9と3か月連続で改善するなど、米国における個人消費の底堅さが失われている様子はない。実際、自動車を除く小売売上高は前月比+0.4%と6月から伸び率は変わらないことがコンセンサスとなっているほか、コア小売統計(自動車・建材・ガソリン・外食サービス業除く)は前月比+0.5%と6月(同0.0%)から加速が予想されている。また、16日(木)には7月住宅着工件数が発表される。6月の住宅着工件数は年率+117.3万件(前月比-12.3%)と大幅に減少した。戸建て住宅は年率+85.8万件(前月比-9.1%)と大きく減少したほか、集合住宅が年率+30.4万件(前月比-20.2%)と2017年8月以来の低水準となった。着工の先行指標となる住宅着工許可件数は6月に年率+129.2万件(前月比-0.7%)と3か月連続で前月比マイナスを記録したが、マイナス幅は5月(同-4.6%)から大きく縮小したほか、7月は年率+130.8万件と持ち直しが予想されている。かかる状況下、7月住宅着工件数は年率+127.3万件と回復が見込まれている。
- 本邦では、16日(木)に7月貿易統計の発表がある。7月上中旬(1~20日)分の貿易統計では、輸出は前年比+6.9%(6月上中旬:同+6.9%)、輸入は前年比+16.2%(6月上中旬:同+5.2%)となり、貿易収支は3720億円の赤字となった。報道によれば、輸出は鉄鋼と半導体等電子部品、および半導体等製造装置が伸び、輸入は原油、医療品、および石油製品が増加したようだ。上中旬の結果を受けて市場では7月全体の輸出は+6.2%、輸入は+14.4%と予想されている。また、貿易収支は500億円の赤字、季節調整値では+3030億円の黒字が見込まれている。

	本 邦	海 外
8月10日(金)	・4~6月期GDP(1次速報) ・7月国内企業物価 ・6月第3次産業活動指数	・米7月消費者物価 ・米7月財政収支
13日(月)		
14日(火)	・6月鉱工業生産指数(確報)	・独4~6月期GDP(速報) ・ユーロ圏6月鉱工業生産指数 ・ユーロ圏4~6月期GDP(速報)
15日(水)		・米7月小売売上高 ・米8月ニューヨーク連銀製造業景気指数 ・米7月鉱工業生産指数 ・米6月企業在庫
16日(木)	・7月貿易収支	・ユーロ圏6月貿易収支 ・米7月住宅着工件数 ・米8月フィアデルフィア連銀製造業景気指数
17日(金)		・ユーロ圏6月経常収支 ・ユーロ圏消費者物価指数(確報) ・米7月景気先行指数 ・米8月ミシガン大学消費者マインド指数

【当面の主要行事日程(2018年8月~)】

- 米FOMC(9月25~26日、11月7~8日、12月18~19日)
- ECB政策理事会(9月13日、10月25日、12月13日)
- 日銀金融政策決定会合(9月18~19日、10月30~31日、12月19~20日)
- 米カンザスシティ連銀主催のジャクソンホール会議(8月23~25日)

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー(2018年8月)

月	火	水	木	金	週末
		<p>1</p> <p>日本 自動車販売台数(7月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(確報、7月)</p> <p>米国 ADP雇用統計(7月)</p> <p>米国 建設支出(6月)</p> <p>米国 ISM製造業景気指数(7月)</p>	<p>2</p> <p>日本 マネタリーベース(7月)</p> <p>米国 製造業受注(確報、6月)</p> <p>米国 耐久財受注(確報、6月)</p>	<p>3</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、7月)</p> <p>米国 雇用統計(7月)</p> <p>米国 貿易収支(6月)</p> <p>米国 失業率(7月)</p>	
<p>6</p> <p>ドイツ 製造業受注(6月)</p>	<p>7</p> <p>日本 毎月勤労統計(6月)</p> <p>日本 景気動向指数(速報、6月)</p> <p>ドイツ 貿易収支(6月)</p> <p>ドイツ 鉱工業生産(6月)</p> <p>米国 消費者信用残高(6月)</p>	<p>8</p> <p>日本 貸出・預金動向(7月)</p> <p>日本 景気ウォッチャー調査(7月)</p>	<p>9</p> <p>日本 マネースtock(7月)</p> <p>米国 生産者物価(7月)</p> <p>米国 卸売売上高(6月)</p> <p>ワシントン(アメリカ)</p> <p>日米貿易協議</p>	<p>10</p> <p>日本 国内企業物価(7月)</p> <p>日本 第三次産業活動指数(6月)</p> <p>日本 GDP(速報、4-6月期)</p> <p>米国 消費者物価(7月)</p> <p>米国 財政収支(7月)</p>	
<p>13</p>	<p>14</p> <p>日本 鉱工業生産(確報、6月)</p> <p>ドイツ GDP(速報、4-6月期)</p> <p>ドイツ 消費者物価(確報、7月)</p> <p>ユーロ圏 鉱工業生産(6月)</p> <p>ユーロ圏 GDP(速報、4-6月期)</p>	<p>15</p> <p>米国 小売売上高(7月)</p> <p>米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(8月)</p> <p>米国 鉱工業生産(7月)</p> <p>米国 企業在庫(6月)</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資)(6月)</p>	<p>16</p> <p>日本 貿易収支(7月)</p> <p>ユーロ圏 貿易収支(6月)</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(8月)</p> <p>米国 住宅着工(7月)</p>	<p>17</p> <p>ユーロ圏 経常収支(6月)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(確報、7月)</p> <p>米国 景気先行指数(7月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、8月)</p>	
<p>20</p>	<p>21</p>	<p>22</p> <p>米国 中古住宅販売(7月)</p> <p>米国 FOMC議事要旨(7月31日-8月1日開催分)</p>	<p>23</p> <p>日本 景気動向指数(確報、6月)</p> <p>ユーロ圏 製造業PMI(速報、8月)</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(速報、8月)</p> <p>米国 新築住宅販売(7月)</p>	<p>24</p> <p>日本 全国消費者物価(7月)</p> <p>日本 企業向けサービス価格(7月)</p> <p>ドイツ GDP(確報、4-6月期)</p> <p>米国 耐久財受注(速報、7月)</p> <p>米国 製造業受注(速報、7月)</p>	
<p>27</p> <p>ドイツ IFO企業景況指数(8月)</p> <p>米国 シカゴ連銀全米活動指数(7月)</p>	<p>28</p> <p>米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(6月)</p> <p>米国 消費者信頼感指数(8月)</p>	<p>29</p> <p>米国 GDP(2次速報、4-6月期)</p> <p>米国 個人消費(2次速報、4-6月期)</p> <p>米国 PCEコアデフレーター(2次速報、4-6月期)</p>	<p>30</p> <p>ドイツ 消費者物価(速報、8月)</p> <p>米国 個人消費・所得(7月)</p>	<p>31</p> <p>日本 失業率(7月)</p> <p>日本 東京都都区部消費者物価(8月)</p> <p>日本 鉱工業生産(速報、7月)</p> <p>日本 新設住宅着工(7月)</p> <p>ユーロ圏 失業率(7月)</p> <p>ユーロ圏 消費者物価指数(速報、8月)</p> <p>米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、8月)</p> <p>米国 シカゴ購買部協会景気指数(8月)</p>	

[注]*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
 (資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー (2018年9月)

月	火	水	木	金	週末
<p>3</p> <p>日本 自動車販売台数(8月) ユーロ圏 製造業PMI(確報、8月)</p>	<p>4</p> <p>日本 マネタリーベース(8月) 米国 建設支出(7月) 米国 ISM製造業景気指数(8月)</p>	<p>5</p> <p>ユーロ圏 サービス業PMI(確報、8月) 米国 貿易収支(7月)</p>	<p>6</p> <p>ドイツ 製造業受注(7月) 米国 ADP雇用統計(8月) 米国 耐久財受注(確報、7月) 米国 製造業受注(確報、7月)</p>	<p>7</p> <p>日本 毎月勤労統計(7月) 日本 景気動向指数(速報、7月) ドイツ 貿易収支(7月) ドイツ 鉱工業生産(7月) ユーロ圏 GDP(確報、4-6月期) 米国 雇用統計(8月) 米国 失業率(8月)</p>	
<p>10</p> <p>日本 GDP(確報、4-6月期) 日本 国際収支(7月) 日本 貸出・預金動向(8月) 日本 景気ウォッチャー調査(8月) 米国 消費者信用残高(7月)</p>	<p>11</p> <p>日本 マネーストック(8月) 日本 第三次産業活動指数(7月) 米国 卸売売上高(7月)</p>	<p>12</p> <p>ユーロ圏 鉱工業生産(7月) 米国 生産者物価(8月) 米国 ペーシュブック</p>	<p>13</p> <p>日本 国内企業物価(8月) ドイツ 消費者物価(確報、8月) ユーロ圏 ECB理事会(フランクフルト) 米国 消費者物価(8月) 米国 財政収支(8月)</p>	<p>14</p> <p>日本 鉱工業生産(確報、7月) ユーロ圏 貿易収支(7月) 米国 小売売上高(8月) 米国 鉱工業生産(8月) 米国 企業在庫(7月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(速報、9月)</p>	
<p>17</p> <p>日本 敬老の日 ユーロ圏 消費者物価指数(確報、8月) 米国 ニューヨーク連銀製造業景気指数(9月)</p>	<p>18</p> <p>米国 TICレポート(対外対内証券投資)(7月) 日本 金融政策決定会合(-19日)</p>	<p>19</p> <p>日本 貿易収支(8月) 米国 住宅着工(8月)</p>	<p>20</p> <p>米国 フィラデルフィア連銀製造業景気指数(9月) 米国 景気先行指数(8月) 米国 中古住宅販売(8月)</p>	<p>21</p> <p>日本 全国消費者物価(8月) ユーロ圏 製造業PMI(速報、9月) ユーロ圏 サービス業PMI(速報、9月)</p>	
<p>24</p> <p>日本 秋分の日 ドイツ IFO企業景況指数(9月) 米国 シカゴ連銀全米活動指数(8月)</p>	<p>25</p> <p>日本 企業向けサービス価格(8月) 日本 景気動向指数(確報、7月) 米国 S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格(7月) 米国 消費者信頼感指数(9月) 米国 FOMC(-26日)</p>	<p>26</p> <p>米国 新築住宅販売(8月)</p>	<p>27</p> <p>ドイツ 消費者物価(速報、9月) 米国 GDP(3次速報、4-6月期) 米国 個人消費(3次速報、4-6月期) 米国 PCEコアデフレーター(3次速報、4-6月期) 米国 耐久財受注(速報、8月) 米国 製造業受注(速報、8月)</p>	<p>28</p> <p>日本 失業率(8月) 日本 東京都都区消費者物価(9月) 日本 鉱工業生産(速報、8月) 日本 新設住宅着工(8月) ユーロ圏 消費者物価指数(速報、9月) 米国 個人消費・所得(8月) 米国 ミシガン大学消費者マインド(確報、9月) 米国 シカゴ購買部協会景気指数(9月)</p>	

(注)*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
(資料)ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年8月9日	ポンド安を支えるユーロ堅調～元安、トルコリラ安も～
2018年8月8日	2018年上半期の円相場の基礎的需給環境
2018年8月7日	中国の米国債売却はあり得るのか？
2018年8月6日	ソフトデータが暗示する世界経済失速
2018年8月3日	週末版(BOE利上げの正しい読み方～市場の本音は「理解に苦しむ」～)
2018年8月2日	FOMCを終えて～肅々とオーバーキルを予想～
2018年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～いつまでもチャンスは無い～
2018年7月30日	メインシナリオへのリスク点検～いよいよ「伝家の宝刀」？～
2018年7月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～金利ガイダンスの正しい読み方～)
2018年7月26日	日銀正常化観測と日米貿易協議(FFR)の関係性
2018年7月20日	週末版(「グレートモデレーション」再来を疑う時～「保険の売り」は慢心の表れ～)
2018年7月19日	危うい理由なきドル/円上昇～金利・物価情勢は支持せず～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年6月分)
2018年7月17日	貿易戦争懸念と為替市場の現状～一部市場に異変も～
2018年7月13日	週末版(新興市場の混乱と「炭鉱のカナリア」～米国のクレジットスプレッドは着実に拡大中～)
2018年7月12日	ドイツ住宅市場の現状と展望～見過ごされる「パプルの芽」～
2018年7月10日	混迷を深めてきた英国のEU離脱プロセス～論点整理～
2018年7月9日	米中開戦の時～欧州も巻き込み貿易大戦の極相か？～
2018年7月6日	週末版
2018年7月5日	ECBを待ち受ける険路～「試練の秋」～
2018年7月4日	EUが迎える新たな危機～債務危機から難民危機へ
2018年7月3日	米中貿易摩擦の読み方～「返り血」は避けたい米国～
2018年7月2日	2018年上半期を終えて～予測の王道は変わらず～
2018年6月29日	週末版
2018年6月27日	メインシナリオへのリスク点検～再び先鋭化した保護主義～
2018年6月26日	またも生き残ったメイ英首相～EU離脱法案の成立～
2018年6月22日	週末版
2018年6月21日	ユーロ圏共通予算を阻むメルケル政権の危機
2018年6月20日	「ユーロ危機2.0」への警告～米国とイタリアの挟撃～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年5月分)
2018年6月19日	改めて整理する「中立金利との距離感」～分水嶺～
2018年6月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「APPはタカ派」、「利上げはハト派」の折衷案～)
2018年6月14日	FOMCを終えて～「後ろめたさ」を抱きつつの運営に～
2018年6月13日	米朝首脳会談～市場の関心は「非核化完了」or「協議決裂」～
2018年6月12日	アベノミクス高値「125.86円」から3周年
2018年6月11日	FOMCプレビュー～テーマは「中立金利との距離感」～
2018年6月8日	週末版(外国人労働者の受け入れ拡大について～成長を望むなら～)
2018年6月7日	主要な景気先行指標の現状～世界経済の失速は露わに～
2018年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～イタリア危機を越えて～
2018年6月5日	イタリア危機は去ったのか？～このままでは済まず～
2018年6月4日	鮮明になった「G6+1」の構図
2018年6月1日	週末版(イタリア、スペイン懸念は波及するのか～イタリア発スペイン経由南米行き？～)
2018年5月30日	17年未の本邦対外資産・負債状況～安全通貨「円」の本領～
2018年5月29日	続、イタリア政局の現状と展望～ECBが被る誤算～
2018年5月25日	週末版
2018年5月23日	イタリア政局の現状と展望～論点整理～
2018年5月22日	「双子の赤字」と整合的なドル安予想 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年4月分)
2018年5月21日	上がらない米インフレ期待から何を読むべきか？
2018年5月18日	週末版(続、米金利上昇の余波を受ける新興国について～金融市場は「我慢比べ」の段階に～)
2018年5月17日	軟化するユーロ相場の現状と展望について
2018年5月16日	次期NY連銀総裁の考える中立金利の在り方について
2018年5月15日	APPの総括と今後の展望～仏中銀総裁講演を受けて～
2018年5月14日	米金利上昇の「負の側面」～家計・企業・海外～
2018年5月11日	週末版
2018年5月10日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月9日	海外企業買収と円相場について
2018年5月8日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月2日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月1日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～)
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の露払い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振られるべからず～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年3月分)
2018年4月20日	週末版(日米首脳会談を終えて～「古く新しい問題」とライトハイザー対策～)
2018年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～強まった警戒色～
2018年4月17日	日米首脳会談プレビュー～見るべきポイント～
2018年4月16日	為替政策報告書の正しい読み方～論点の整理～
2018年4月13日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～明確なユーロ高懸念～)
2018年4月12日	続、残業代規制の影響～閣議決定を受けて～
2018年4月11日	ユーロ/ドル相場の値動き分析～金利差の観点から～
2018年4月10日	為替政策報告書プレビュー～中長期的に咀嚼すべき～
2018年4月9日	円相場の基礎的需給環境～米金利上昇に頼れず～
2018年4月6日	週末版(保護主義とドル安の関係性～日本に求められる交渉戦略～)
2018年4月5日	ドイツに非はないのか～貿易戦争で考える立ち位置～
2018年4月4日	想定為替レートと実勢相場の関係について
2018年4月3日	クラウドファンディング・アウトとLIBOR-OISスプレッド～新たな懸念～
2018年4月2日	外貨準備構成通貨の現状(17年12月末)～第二次多様化～
2018年3月30日	週末版(日米金利差「3%」はトリガーなのか～3つの注意点～)
2018年3月27日	ユーロ圏経済は本当に磐石なのか？
2018年3月26日	メインシナリオへのリスク点検～安直な円安予想の終わり～
2018年3月23日	週末版(FOMCを終えて～名実共に「引き締め」局面へ～)
2018年3月20日	ECBは来年、利上げするのか？～関係筋発言を受けて～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年2月分)
2018年3月16日	週末版(実質実効為替相場で見ると各国通貨の現状～気まずい「円」の立ち位置～)
2018年3月15日	第4次メルケル政権発足を迎えて～ポスト・メルケル時代～
2018年3月13日	ドイツバブルを警戒すべきか？
2018年3月12日	経験則からイメージするドル/円相場の「波」
2018年3月9日	週末版(ECB政策理事会を終えて～現状追認とポスト・ドラギの胎動～)